

研究課題	誰ひとり取り残さない教育 ICT を活用した学習支援
副題	～フレンドリーオンラインの活動を通して～
キーワード	不登校 オンライン
学校/団体人	公立熊本市立芳野中学校フレンドリーオンライン
所在地	〒861-5343 熊本県熊本市西区河内町野出 1420-46
ホームページ	https://www.kumamoto-kmm.ed.jp/sch/j/yoshinojh/foyl/

1. 研究の背景

文部科学省が公表した「問題行動・不登校調査」によると、全国の小中学校で2024年度に学校を30日以上欠席した不登校の児童生徒は、前年度から7488人(2.2%)増の35万3970人となり、過去最多を記録した。不登校の増加は12年連続で、10年前と比較すると小学生は5.5倍、中学生は2.2倍となった。このような状況のもと、不登校生への支援は、各学校が単独で行える状態ではなくなってきている。学校の枠を超え、それぞれの生徒に寄り添う多様な支援が求められている。そのような中、熊本市では令和3年9月より、オンラインによる不登校生支援を開始した。本校のフレンドリーオンラインは、その配信を行う拠点である。熊本市の各中学校に在籍する不登校の生徒の中で、受講を希望する生徒に対して、様々な教育プログラムを配信している。そのような活動をする中で、どのようにすれば、一人一人の生徒に教育機会の保障ができるのか、生徒の自己肯定感を高めることができるのか、また生徒の自立を促すことができるのか、日々悩みながらも、工夫しながら実践を積み重ねている。

2. 研究の目的

フレンドリーオンラインでは、参加する生徒の現状を受け入れ、まずは生徒が安心して配信を受けることができるようにするのが、最低限の目標である。配信の中でのやり取りを通して、ほっこりしたり、癒されたりして、生徒には元気になってもらいたいと考えている。その上で、オンラインでの配信を受信するだけのレベルから、配信に対して何らかのリアクションをすることができるレベルへ、そしてさらには、自分の考えや作品をアウトプットできるレベルになればと考えている。

また、支援員だけでなく、教科教育を担当する本校の教員や様々な方面で活躍されている社会人とつながったり、参加する生徒同士とつながったりすることで、生徒の社会性が育っていくことを期待している。

さらに、熊本市内のいろいろな場所から配信をし、その場で生徒や保護者と直接会ってゲームや会話をする機会をつくっている。このようにして生徒が人や社会との直接的な関わりに安心感を持てるようになればと考えている。

定期的に保護者への通信を発行したり、保護者会を開催したりすることで、不登校生を持つ保護者同士のつながりをつくり、保護者の支援も行っている。このことが、不登校の生徒にも必ずいい影響を与えていると考えている。

3. 研究の経過

令和8年2月現在、フレンドリーオンラインに登録している生徒は、中学1年生85人、中学2年生133人、中学3年生106人の計324人である。この324人のうち、ほぼ毎日フレンドリーオンラインに参加してくる生徒もいるが、学校に登校できない時だけ参加してくる生徒もいる。一方で、登録はしているものの実際に参加できない生徒もいる。このような生徒への支援は、その生徒の在籍校の先生方が行っているため、在籍校の先生方へフレンドリーオンラインの状況を伝える必要がある。そこで今年度は、フレンドリーオンラインで行っている教育活動や支援活動をより周知することに力を注いだ。

その上で、以下の4点に重点を置いて実践を重ねた。

- ① いろいろな人からの学び
- ② いろいろな場所からの学び
- ③ 生徒が表現する場の設定
- ④ 保護者に寄り添う支援

4. 代表的な実践

フレンドリーオンラインの活動状況を広く周知するため、「フレンドリーオンラインの1日」(<https://www.youtube.com/watch?v=qZML9ENtoGY>)という動画を作成し、芳野中Webサイトに掲載するとともに、熊本市の中学校長会で動画を共有してもらった。また、熊本市の教職員を対象にしたオンライン参観日を年2回設定したり、学校単位の研修会も開催したりし、フレンドリーオンラインの状況を周知し不登校支援に対する意見交換をおこなった。

4.1 いろいろな人からの学び

生徒の視野を広げ、社会性を育てるために、私たち支援員や教科を担当する本校職員以外の方を積極的にお迎えし、その方の生き方に学ぶ時間とした。

4.1.1 社会人ゲストティチャー

様々な場面で活躍をされている方、いろいろな苦難を乗り越えて頑張られている方に配信に参加してもらい、支援員が聞き手となって話をしてもらった。

表1：社会人ゲストティチャー一覧

月 日	講師	講演内容
5月14日	里見 はるか	海岸で拾い集めたプラスチック製のアクセサリなどを自作する環境活動家。「ReLABLEDーリラベルドー」店主。長崎からオンライン参加。
7月2日	三宅 貴広	日本だけでなく世界のカブトムシを飼育し、標本も作製する昆虫博士。実際に生きている成虫、幼虫をみせながらそれぞれの昆虫の特徴を紹介。
10月8日	元田 雄己	仕事が合わず挫折、引きこもり。その後、体を鍛えることで自分自身が変わるということに気づかれたボディービルダー九州チャンピオン。

11月29日	大竹 陽奈子 田尻 洋一	OMO5 熊本にお勤めの二人。ホテルのコンセプト、仕事をするうえで心がけられていることなど、経験談を交えて講演。
11月12日	山内 里弥	高校生時代に不登校を経験。しかし、その後の人との出会いや行動力と前向き・明るさをもとに、保健室の先生になるという、現在に至るまでのお話。
3月4日	石原 清隆	中学時代不登校を経験。その後、数年たって一念発起。自分と同じ境遇の生徒の役に立ちたいと精神科医を目指し大学進学。

<参加した生徒の感想>

- ・里見さんは明るそうな人だけど、お話を聴いたら、今の私と同じで…。私は思春期だからかもしれないけれどイライラしたときに両親やお姉ちゃんにあたるようになっていました。自分では、後になって後悔しています。里見さんは、いろんなことに挑戦されていてすごいと思いました。
- ・誰にでも挫折があつて、もう無理だと思うことがあります。ですが、何かをすることによって、きっかけがあることによって、それまでの辛い日々が変わることができるのかなと思いました。「運動を通して心も前向きになれる」と聞き、私も何かやってみようと思いました。



図1 ゲストティチャーの様子

4.1.2 スクールカウンセラー「心すっきりタイム」

熊本市のスクールカウンセラーである 3 人の方に輪番でスタジオに来てもらい、各時期に適したテーマで「心すっきりタイム」と題し 60 分間講話をして頂いた。

表 2 : スクールカウンセラーによる講話一覧

月 日	講師	講演内容
5月26日	澤 栄美 SC	SCとは? カウンセリングとは?
6月23日	宮路啓吾 SC	ストレスについて考えよう
7月8日	松本裕子 SC	楽しい夏休みにするために
9月18日	澤 栄美 SC	マイナスの考え方を転換するって?
10月27日	宮路啓吾 SC	心ってどこにある?どんな色?どんな形?
11月20日	松本裕子 SC	自己肯定感について考えよう
12月8日	澤 栄美 SC	緊張の仕組みを学ぼう
1月19日	宮路啓吾 SC	みんなからの相談受け付けます
2月16日	松本裕子 SC	4月に向けて、今、大切にしたい考え方

＜参加した生徒の感想＞

- ・イラストや人などで例えてくださって分かりやすかったです。考え方もこうしたら良いんじゃないかな～というのも教えてくださって、これから考え方を考えていけたらなと思いました。私自身、落ち着こうと思っても、普段イラついたら口にしてしまい、考えれば考える程、腹が立って、爆発して、おさまったら自分を責めてしまうので、なるべく冷静になって対処していきたいなと思いました。
- ・今日は、スクールカウンセラーの先生からストレスの対処法について教えてもらいました。ストレスを感じたときの気持ちの整え方を知ることができて、とても勉強になりました。最近友達関係、部活、先生のことなどで悩んでいたのを少しずつ解決していけばいいなと思いました。



図2 心すっきりタイムの様子

4.1.3 ユアフレンド

熊本市教育委員会と熊本大学教育学部が連携している取り組みで、1週間に1回程度不登校生の家庭や学校を熊本大学の学生が訪問し、直接子どもと話をしたり、興味のあることを一緒にしたりする「ユアフレンド」という活動がある。この活動に参加している学生にスタジオに来てもらい、「今頑張っていること」「中学時代のこと」「趣味や特技」などについて、支援員とやり取りをしながら話してもらった。今年度は、7人の大学生に来てもらい（7回）、子どもたちとZoom越しの交流を行った。

＜参加した生徒の感想＞

- ・クイズもあり、みんなで参加することで一体感が生まれ、とても楽しく参加することができました。話を聞くだけでなく、参加しながら進める形だったので、あっという間に時間が過ぎて、とても充実した時間でした。楽しかったです。
- ・今日はユアフレンドの方が来てくれました。大学のことだったり、バイトだったり、推しのことや旅行のことなど、質問にも丁寧に答えていてとてもやさしいなと思いました。

4.2 いろいろな場所からの学び

スタジオを飛び出して配信をすることで、希望する生徒や保護者も現地参加することができる「わくわくツアー」を実施した。毎回数人の生徒や保護者が参加した。このわくわくツアーでは、配信の様子を直接見てもらうことも一つの目標であるが、このことを通して、生徒同士や私たち支援員と生徒や保護者が直接触れ合うことを大きな目標としている。ツアーの後にはオフ会も設定し、この場で会話をしたりゲームをしたりすることで、生徒が人と関わることに安心感をもてるようになればと考えている。

表3：わくわくツアー訪問先一覧

月 日	訪問先	配信内容
5月21日	熊本市立現代美術館	やなせたかし展
6月25日	熊本市立博物館	気圧の実験、刀剣、カニの模型
9月24日	熊本城	熊本城復興の様子 石垣の秘密
10月22日	熊本市立動植物園	アナグマ、狸、シロクマ、キリン、象
11月19日	熊本市立現代美術館	しまうちみか 茫茫展
12月3日	こどもの本の森熊本	館内紹介 読み聞かせ
1月28日	熊本市立動植物園	イヌワシ、チンパンジー、サイ
2月25日	熊本市立博物館	プラネタリウム、銅鏡、アンモナイト

＜参加した生徒の感想＞

- ・雨の中の配信ありがとうございました。シロクマの採血の仕方とか、キリンがショートスリーパーなことや、ゾウのえさの量など知ることができて面白かったです。サバンナエリアができるのが楽しみです。
- ・木のいい匂がし、天井のきれいな模様も見られる五感で楽しめる図書館になっていることがよく分かりました。やっぱり実際に見てみるとそのよさがよく伝わってきました。また行きたいと思いました。
- ・僕は、今回初めてわくわくツアーに参加しました。最初は緊張しましたが、仲よくなった友達と熊本城をじっくり巡ることができてとても楽しかったです。オフ会でやったすごろくも面白かったです。



図3 動物園からの配信の様子

4.3 生徒が表現する場の設定

配信の中でのやり取りを通して、参加している生徒のみなさんには、ほっこりしたり、癒されたりして、元気になってもらいたいと考えている。その上で、オンラインでの配信を受信するだけのレベルから、配信に対して何らかのリアクションをすることができるレベルへ、そしてさらには、自分の考えや作品などをアウトプットできるレベルになればと考えている。そういう意味で生徒が自分の考えや作品を発表できる場をできるだけ設定することとした。

4.3.1 パフォーマンス大会

2ヶ月に一度のペースで、生徒が自分の好きなこと、得意なこと、がんばっていることを紹介するパフォーマンス大会を実施している。参加を希望する生徒は、ロイロノートを使い、写真やイラストや動画などを提出した。今年度は、自作のイラスト、画像生成AI作品、背景に使える画像、けん玉動画、ピアノ演奏動画、乗馬動画、自分で魚をさばいた写真、編み物等多様な作品が提出された。

<参加した生徒の感想>

- ・パフォーマンス大会でイラストを投稿して緊張したけど褒めてもらえて嬉しかったです。二学期、本当にありがとうございました。来年もよろしくおねがいします。
- ・今日はパフォーマンス大会があり、いろいろな人の個性や特技を見ることができて、とても楽しかったです。一人ひとりの表現の仕方が違って、見ていてワクワクしました。自分には持っていない特技を発揮している人もたくさんいて、すごいなと感じ、特にペン回ししている人がいて私は一回も成功したことがないので尊敬できました！！また、みんなが一生懸命準備してきたことが伝わってきて、温かい気持ちになりました。このような機会を準備してくださった先生方や、関わってくれたみなさんに感謝したいです。パフォーマンス大会を通して、2学期を楽しい気持ちで終わることができて本当によかったです。

4.3.2 自己紹介カード、一文字目標

配信に参加する生徒に自己紹介カードや自分の目標を、ロイロノートで提出する場も設けている。気軽に提出できるように、全体に紹介していいかどうか、○・×で意思表示できるようにしている。右に示したのがこのときまでに生徒が選んだ漢字である。どの生徒も前向きな漢字を選んでおり、どんな状況であっても頑張りたいという気持ちをもっていることがうかがえた。



図4 生徒が選んだ漢字一覧

<参加した生徒の感想>

- ・{努}…楽しむの「楽」を選ぼうと思ったんですけど、二学期に楽しすぎた気がするので三学期は努力とか誠実に生きていきたいと思ったからです。
- ・「穩」…卒業まであと少しですが、あまり詰め込みすぎずいつも通りの自分で居ようと思ったからです！

4.4 保護者に寄り添う支援

不登校生を持つ保護者は、自分の子育てに自信をなくしたり子どもの将来に不安を感じたりするものである。そんな保護者に寄り添い少しでも元気になって頂くことが、必ず子どもたちにいい影響となって伝わるはずと考え、保護者に寄り添う支援を心がけた。フレンドリーオンラインだよりを作成したり、オンラインによる保護者会や授業参観、現地参加型の保護者のしゃべり場を年2回開催したりした。

<参加した保護者の感想>

- ・初めて保護者会に参加させて頂きました。何か意見を言わなきゃと発言したものの緊張してしまい上手く息が吸えず(笑)お聞き苦しかったと思います。すみません。ただ、同じ悩みを抱えている保護者さんとの話はもっとしたいなと思いました。うちの娘は今、歩き出した、いや走り出した感があります(笑)周りが心配するくらいのスピードで走り出しました。これは、去年1年間フレンドリーオンラインで心を癒せた事がとても大きかったと感じています。心を癒やして居場所が見つかって、好きなものを好きと言える場所が出来たこと。先生方が温か

く見守って下さったおかげで頑張ろうと思えたのだと思います。勉強ももちろん心配ですが、勉強はいつでも取り返せる、今この子に必要なのはこんな時間なんだ!と心からそう思い、子どもと一緒にオンラインの配信を楽しみました。その結果、娘は今走り出せているのだと思います。保護者の方々それぞれ不安に思うことは違いますが、こうやって保護者会という、お話しできる時間を作って頂いたことはとても有り難かったです。ありがとうございました。また参加させていただきます。

5. 研究の成果

令和8年2月に、フレンドリーオンラインに参加している生徒に対してアンケートを行った。その結果、アンケートに回答した生徒のほとんどが肯定的な回答をしてくれた。

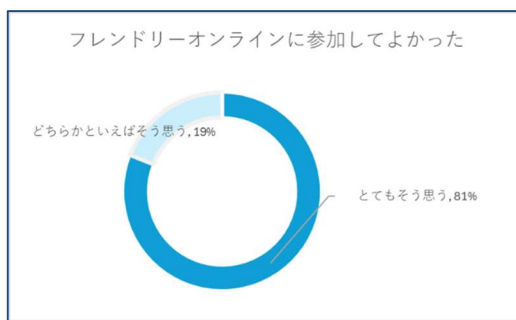


図5 FOに参加してよかったか

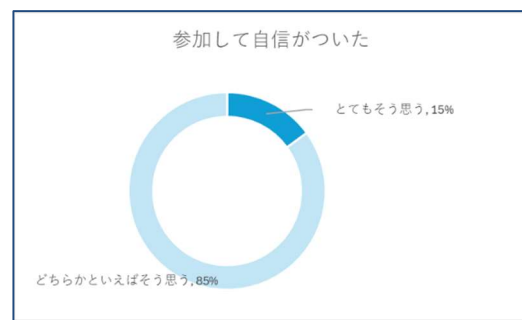


図6 FOに参加して自信がついたか

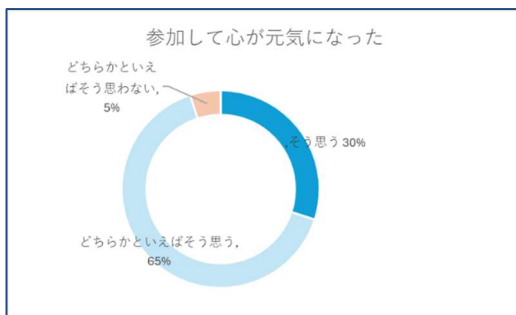


図7 心が元気になったか

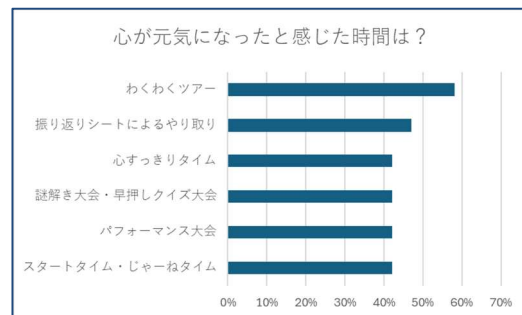


図8 心が元気になった時間

図5と図6ともに肯定的に答えた生徒が100%だが、単に参加かしてよかったと感じるより自分に自信をつけることが、より難しいことがうかがえる。しかし、そんな中でも、私たちの配信が生徒たちの自己肯定感の向上に寄与できていると考えることができる。図7にある参加して心が元気になると感じた生徒に「心が元気になったと感じた時間は？」と聞き、回答の多かった上位6つの時間を示したのが図8である。私たちが重点を置いて実践した、①いろいろな人からの学び、②いろいろな場所からの学び、③生徒が表現する場の設定、④保護者に寄り添う支援のうち、①には「わくわくツアー」、②には「心すっきりタイム」、③には「パフォーマンス大会」、「謎解き大会 (https://www.pef.or.jp/school/grant/school_photo/20260303_01/)」「早押しクイズ大会」などが該当しており、重点を置いて実践した内容が、一定の効果があったと考えられる。

6. 今後の課題・展望

現在、フレンドリーオンラインに登録している生徒は、324人である。この登録している324人の内、実際にこのフレンドリーオンラインの配信に参加する生徒は、161人である。残りの生徒の中には、学校に登校出来るようになり配信に参加しなくなった生徒もいるが、学校やフリースクール等に通えていなく配信にも参加できないという生徒がいることも事実である。さらに、配信に参加している生徒の全てが今回のアンケートに回答しているわけではないことを考えると、今回のアンケート結果をもって、すべての状況を把握できたとは考えづらい。実際にZoomをつなぎ参加してはいるが、反応がなくアンケートにも答えない生徒はどんな気持ちなのだろうか？登録はしたものの配信に参加しない生徒はどうしているのだろうか？そして、私たちは、どんな支援ができるのだろうか？まだまだ考えなくてはいけないことは多くある。すべてを完璧に行うことは難しいが、今後も様々な機関や全国の先進校の取り組みなどを取り入れながら、できることから一つずつ、実践して積み重ねていくことが大切だと感じている。

7. おわりに

令和8年2月に卒業を前にした3年生から次のメッセージが送られてきた。

「Zoomに入ったのは2年生の後半で、最初は緊張して不安でした。ですがフレンドリーオンラインの先生方が温かく迎えてくださり、安心して入れました。2年生の途中で不登校になってしまい、学習が中々すすめられませんでした。フレンドリーオンラインに入ってから自分のペースですすめられ学ぶことができました。3年生になると不安になり泣いてしまうこともありました。なんとか志望校も見つかり合格できて不安も少しなくなりました。2年生の時に比べると挑戦したり、反応したりすることが多くなり、そのたびに先生方が褒めてくださり、挑戦して良かったなあと思いました。いつも、すらら（生徒が自分で学習内容を選び学べる学習サイト）やセルフタイム（生徒が自分の学習内容を設定して学習をすすめる時間）で温かい言葉をかけてくださりありがとうございます！そのおかげで自分なりに頑張れました。まだまだ反省点はありますが、良いところは伸ばして良くないところは直せるように頑張ります。このフレンドリーオンラインで先生方や皆さんと学べたことは宝物です。」

このような、メッセージを受け取るたびに、私たちは元気をもらい大変ありがたく感じている。それと共に、どんな生徒も本当は「頑張りたい」という気持ちをもっているということ、そして、それが今はうまくいかないときだということ、周りの人間が温かく肯定的に接する必要があること、生徒の心が元気になるのを焦らずに待つこと、などが必要だと感じている。

8. 参考文献

・学校法人国際学園 星槎もみじ中学校 不登校特例校における課題解決学習を深化させるためのVR教育の実践的研究：2年目 パナソニック教育財団『令和6年度成果報告書』
https://www.pef.or.jp/db/pdf/2024/2024_35.pdf （2025年12月1日参照）